

口腔外科を併用した「埋伏歯」の矯正治療

*実際の手術画像が含まれますので、苦手な方は閲覧をお控えください。

東京審美会では、**口腔外科治療を併用する矯正治療も、安心して治療を受けていただくことができます。**東京大学医学部口腔外科教室出身の総院長自らが執刀します。

(但し、下顎の切断手術、下顎の埋伏親不知歯の抜歯手術は、東京大学医学部での治療)

埋伏歯を外科的に開窓し、矯正移動によりきれいな歯ならびにした症例

(術者 中田圭祐)

〈治療前〉 歯肉の下の骨に永久歯が埋まっています。



〈手術中1〉 粘膜と骨膜をきれいに剥離して骨を出しますこの骨の中に、歯が埋伏しています。



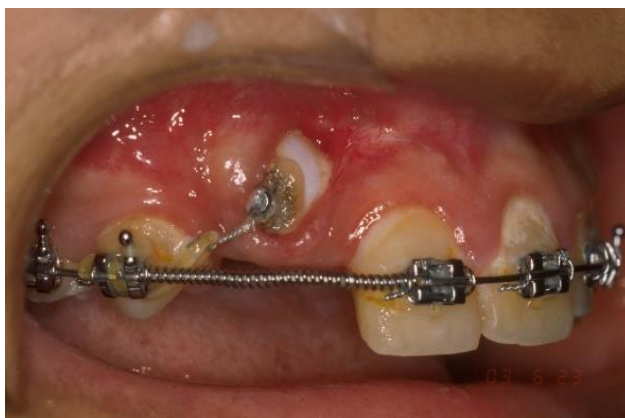
〈手術中 2〉 骨を丁寧に割って孔を開けると、歯が確認できました。口腔外科では、通常、埋伏歯は摘出してしまいましたが、総院長は、歯は残して矯正装置をつけます。



〈手術中 3〉 歯に矯正装置を取り付けました。歯が動きやすいように、特殊なお薬で周囲の骨を少し溶かしました。



〈治療中 1〉 手術後は歯の向きをコントロールしながら、歯を挺出移動させます。



〈治療中 2〉 歯の方向を調整できる装置に取り換えました。総院長が考案した、ダブルワイヤー矯正法で歯を挺出移動させます。



〈治療中 3〉 ここまでくれば、後は普通の矯正治療です。さらに歯を挺出移動させて、全体のバランスをとります



〈治療後〉 きれいに歯が並びました。どの歯が骨の中にあった歯だかおわかりになりますか？

